

おしらせ

★平成17年4月から土日も**午後のみ開館**しています。
★図書館の開館日 祝日と年末年始(12/31~1/3)
蔵書点検日(年に1回2日間予定)

★問い合わせ先
西栗倉村教育委員会 あわくら会館図書係まで
☎0868-79-2216

E-mail:toshokan@vill.nishiwakura.okayama.jp

県図書コーナー入れ替えました

県立図書館のコーナーは、年2回入れ替えをしています。11月8日に今年2回目の入れ替えをしました。絵本、児童書から一般書、趣味の実用書まで約900冊を選んできています！



玄関塾の県図書コーナー

そんな県図書を少しでも知っていただき、活用してもらえよう、今月から季節に応じた特集コーナーを設けます。

第1回は、編み物特集のコーナーをつくっています。

今後も県図書は、「子ども図書館」には少ない大人向け一般書と趣味・実用書を中心に選んでいきます。最新の書籍も多数入っていますので、ぜひ一度手に取って見て、趣味と実益をかねて挑戦してみてください。



寒い冬にぴったり編み物特集



クリスマス特集コーナー

なお、クリスマスの絵本特集も開催中！お子さんとの楽しいクリスマスの夜を、絵本を広げて過ごしてみませんか？もちろん大人にも懐かしい絵本もあります。

恋人と過ごすクリスマスにもぴったりな絵本も…。

えかっでえー 「恐竜スーのおくりもの」

著：松園 直美 主婦の友社

個性を生かすことはとても大変です。時にそれは協調性に欠けるとか、自分勝手ととられてしまうから。そんな子どもだった主人公コースケくんは、世界最大の恐竜化石ティラノサウルスの「スー」に出会うことで、スーを取り巻くさまざまな人に出会うことで、理解してくれる先生や友達に出会うことで、そして何より悩みながらも辛抱強く支えてくれる両親の愛情のおかげで、個性を諦めず、クラスの中で自分の居場所を作っていきます。その姿にじんと来ました。



ちょうど大阪の大恐竜展で日本に来ていた「スー」にどうしても逢いたくなって、大阪まで行ってしまいました！
(相澤 彰太)

図書館へ行こう！

児童書

今月の新着本



◀くいしんぼフンガくん
作：国松エリカ 小学館

元気なこぶたのフンガくんの楽しい毎日。「アイスのまき」「スケートのまき」「いもほりのまき」「おつきみのまき」に加え、書き下ろし「おはなみのまき」を掲載。美味しそうな食べ物を前に、フンガくんはパワー全開で大活躍。

魔術師アブドゥル・ガサツィの庭園▶

作：C. V. オールズバーク あすなろ書房

逃げ出した犬を追った少年が入り込む、ガサツィの巨大な庭園。そこで起こる奇妙な出来事が臨場感いっばいに伝わってきます。



◀子ぎつねヘレンがのこしたものの
作：竹田津実 偕成社

キタキツネの子ヘレンは、道路わきにうずくまっていたところを保護されて、獣医の竹田津先生のところへつれてこられました。ヘレンはどうやら目が見えず、耳も聞こえないようです。ミルクをあたえても、見向きもしません。でも、先生夫妻の懸命な介護で、ヘレンはやがて…。来年春映画化！

一般書



◀信長の棺
著：加藤 廣 日経新聞社

本能寺の変後、信長はどこへ消えたか――。日本史最大の謎に挑んだ本格歴史ミステリー。光秀謀反にちらつく秀吉の陰謀。阿弥陀寺の僧侶が握る秘密の鍵。そして、主人公が最後につかんだ驚愕の事実とは。

京都ミュージアムワンダーランド▶ 光村推古書院

京都にある面白いミュージアムの数々を紹介。京都の伝統を伝える博物館、果敢に新しいものに取り組んできた企業の軌跡を伝える博物館、気概あふれる究極のコレクション、展示物はいわゆる芸術品から、お箸あり、プラジャーあり、ブリキのおもちゃあり、はたまた石もあり…。「こんなミュージアムがあったんだ」とオドロキの連続。一度は訪れたいミュージアム満載の京都の美術館・博物館ガイド。



◀恋する車イス
著：木島英登 徳間書店



ラグビー練習中の事故により、下半身不随になった17歳の高校3年生。一番の恐怖は、「俺は一生、重負のままなのか？」とにかく女性にモテようと、苦しみ、試行錯誤しながら、毎日を求めポジティブに生きていく。海外旅行もした、就職もした。だけど彼女は……。出来ないから、知らないから、思い込みと妄想に囚われ……。明るく元気に生きたいすべての人に贈る、涙と笑いの感動ノンフィクション